



国際交流活動2016年

国際展開担当理事 跡見 晴幸

去る9月28日(水)～30日(金)に、富山国際会議場-ANAクラウンプラザホテル富山(富山市)で開催された第68回日本生物工学会大会(富山大会)における国際交流関連行事を中心に今年度の国際交流活動について報告する。

■**生物学アジア若手賞** 本年度は第13回目となり、タイのマヒドン大学(Mahidol University)のChoowong Auesukaree (Department of Biology, Faculty of Science, Mahidol University) 博士に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Molecular mechanisms underlying yeast adaptive responses to environmental stresses and pollutants (酵母の環境ストレスや汚染物質に対する応答を支える分子機構)」で、受賞講演は大会2日目の午後に行われた。Auesukaree博士は学部・修士課程は京都大学で学び、その後大阪大学工学研究科で博士課程に進学、2005年に博士の学位を授与された。その後、King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangでLecturerを務め、2006年にMahidol UniversityでLecturerとして着任し、2009年にAssistant Professor(現職)となった。Auesukaree博士は酵母を中心に、さまざまな環境因子に対する細胞の応答機構の解明を目指した研究を幅広く展開し、目覚ましい研究成果をあげている。同氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。



■**生物学アジア若手研究奨励賞(The DaSilva Award)** 本賞は微生物に関連するバイオテクノロジーの分野で、近い将来に顕著な研究業績をあげることが期待される35才迄のアジアの若手研究者に対して授与される。第4回目の本年度はタイのUschara Thumarat (Department of Industrial Biotechnology, Faculty of Agro-Industry, Prince of Songkla University) 博士に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Biochemical characterization and molecular engineering of recombinant cutinases and carboxylesterase from a thermophilic actinomycete, *Thermobifida alba* AHK119 (好熱性放線菌 *Thermobifida alba* AHK119 由来cutinaseおよびcarboxylesteraseの生化学的解析と分子工学)」であった。Thumarat博士は学部・修士課程の間はタイ国のPrince of Songkla Universityで学び、2009年に京都工芸繊維大学で博士課程に進学し、2012年に博士の学位を授与された。その後、King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangでLecturerを務め、2014年にPrince of Songkla UniversityにLecturer(現職)として着任された。Thumarat博士は好熱性微生物由来の有用酵素に注目し、それらの特性解析から酵素工学まで精力的に研究を進めている。同氏の今後の研究における益々のご発展を期待したい。



■**韓国生物工学会(Korean Society for Biotechnology and Bioengineering, KSBB)との学術交流** 日本生物工学会とKSBBとは、学術交流協定に基づき、双方の年次大会において数名の招待講演を実施することで相互交流を続けている。今年は、4月20～22日にHICO(慶州)で開催されたKSBB春季大会に、昨年度の学会賞受賞者である福崎英一郎先生(生物学功績賞, 阪大)、吹谷智先生(斎藤賞, 北大)、金美海先生(江田賞, 阪大)が参加し、講演を行った。富山大会では、KSBBからの4題の招待講演が、大会2日目の3つのシンポジウムの中で行われた。招待講演者は、Seung Pil Pack教授(Korea University)、Hyun Ho Lee教授(Myongji University)、Hyun Gyu Park教授(KAIST)、Jong-In Won教授(Hongik University)であった。また、KSBB秋季大会は10月13日から14日までKimdaejeung Convention Center in Gwangju(光州)で開催され、本会からは、国際展開委員の北本宏子先生と筆者(跡見)が参

加した。大会初日に北本先生はCurrent Issues on Food Chemistry and Biotechnology, 跡見はBiotechnology for C1 Biorefineryと題した国際セッションにおいてそれぞれ研究発表を行った。大会初日夕刻には懇親会が、また2日目夕刻にはKSBB主催の歓迎会が開催され、海外からの他の招待講演者とともに北本・跡見が参加した。

■KSBB-SBJ 交流会議 富山大会初日の9月28日午後に、上記4名のKSBB招待講演者にTai Hyun Park教授 (KSBB 会長, Seoul National University), 国際シンポジウムの招待講演者のJeong Woo Choi教授 (KSBB 副会長, Sogang University), Sung-Ok Han教授 (Korea University)を加えた7名が出席し、交流会議が開かれた。交流会議では今後のKSBB-SBJ交流方針その他について意見交換が行われた。本会からは、五味会長、木野副会長、川面副会長 (産学連携)、北本・中野・跡見 (国際展開)、今井 (産学連携)、福崎 (学術活動)、加藤 (英文誌編集)、本多・紀ノ岡 (庶務・会計)、大政 (企画)の各業務担当理事および事務局より伊藤が出席した。2017年度のKSBB春季大会および同秋季大会への本会会員の派遣、2017年度の第4回SBJシンポジウムおよび第69回日本生物工学会大会へのKSBB会員の招待人数などについて打合せが行われた。

■その他 富山大会では初日の授賞式において五味会長の挨拶に続いて、KSBBを代表してTai Hyun Park会長によるご挨拶があった。Park会長は大会初日の交流会議 (写真)に出席した後に帰国され、同日夕刻の懇親会ではChoi副会長が鏡開きに参加された。大会2日目の夕刻には、会場近くの飲食店でKSBB招待講演者およびSeung Wook Kim元会長をはじめ、国際シンポジウムで講演をされたKSBB会員数名を招待して歓迎会が開催され、両学会の親睦を深めることができた。

